

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：福岡・澤村]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和2年度 病害虫発生予察情報 特殊報第2号（新病害発生情報）

令和2年9月15日

島根県病害虫防除所

キュウリ退緑黄化病の本県での発生が確認されたので特殊報を発表します。

【概況】

令和2年8月、県東部の施設栽培キュウリにおいて、葉の黄化を示す株が確認された。島根県農業技術センターで RT-PCR 法による検定及び、その増幅産物の塩基配列を解析した結果、ウリ類退緑黄化ウイルス (*Cucurbit chlorotic yellows virus* (CCYV)) が同定され、本県未発生であるキュウリ退緑黄化病であることが確認された。

国内における本病害の特殊報は、平成20年に熊本県が初めて発表し、これまでに20県が特殊報を発表している（中国地方では、広島県、山口県が発表している）。

- 1 病害虫名 キュウリ退緑黄化病
- 2 病原名 ウリ類退緑黄化ウイルス
(*Cucurbit chlorotic yellows virus* : CCYV)
- 3 作物名 キュウリ
- 4 発生場所 県東部
- 5 病徴

発病初期は、葉に退緑小斑点を生じ、次第に斑点が増加・癒合し、まだらに黄化、拡大して葉脈間が退緑した黄化葉となる（図1）。黄化葉は、葉縁部が下側に巻く症状を呈する（図2）。黄化症状は中位葉から下位葉に現れやすく、生長点付近の若い葉には症状は認められない（図3）。本病害は、定植直後から収穫終了時まで発生するが、感染時期が早いほど草勢低下による減収率が上昇し、最大で30%に達する。

本病害の症状は、BPYV (*Beet pseudoyellows virus* : 本県未発生) によるキュウリ黄化病に酷似するため、病徴から病原ウイルスを特定することは困難である。本ウイルスは CCYV に特異的なプライマーを使用した RT-PCR 法によって診断・検出が可能である。

6 伝染経路及び宿主範囲

1) 伝染経路

本ウイルスは、タバココナジラミ（図4）により媒介される。本種が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、半永続的に伝搬能力を保持する。経卵伝染、種子伝染、汁液伝染及び土壌伝染はしないと報告されている。

2) 宿主範囲

本ウイルスによる病害は、国内ではキュウリ以外にメロン、スイカで発生報告がある。

7 防除対策

- 1) 発生ほ場では、罹病株を抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却もしくは埋没処分を行い、二次感染防止に努める。
- 2) 施設栽培では、開口部に目合い 0.4mm 以下の防虫網を張る他、近紫外線カットフィルムの利用などにより施設内へのタバココナジラミの侵入を防ぐ。
- 3) 収穫後の残渣やほ場内及び周辺の雑草は、タバココナジラミの生息・繁殖場所となるので、残渣処理や除草を徹底する。
- 4) 施設栽培終了後は、すべての株を抜根または地際部を切断した上で、10 日間以上密閉して蒸し込み、タバココナジラミを死滅させる。
- 5) 育苗期から本ウイルスの媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。使用する薬剤は、農作物病害虫雑草防除指針の注意事項及び農薬使用基準を遵守する。最新の農薬登録情報は、独立行政法人農林水産消費安全技術センターHP (http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) で確認する。

8 その他

疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所（農業技術センター 資源環境研究部 病虫科：0853-22-6772）に連絡する。



図1 まだらに黄化した葉



図2 葉縁部が下側に巻いた黄化葉



図3 発病株(中位葉が黄化:青矢印)



図4 タバココナジラミ